

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成に対する理念等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

① 大学

本学は、昭和35年4月に九州商科大学商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、昭和38年に工学部の設置とともに校名を「九州産業大学」に改称、昭和41年に芸術学部、昭和43年に経営学部、平成5年に経済学部、平成6年に国際文化学部、平成14年に情報科学部を設置した。その後、改めて時代のニーズ等を踏まえ、平成28年に芸術学部の学科再編、平成29年に工学部、情報科学部を再編した理工学部、生命科学部、建築都市工学部の設置、平成30年度に商学部、経営学部を再編し、新たな商学部、地域共創学部を設置した。また、同時に設置認可申請により、人間科学部を設置した。令和5年4月現在、9学部21学科、5研究科11専攻（博士前期課程6専攻、博士後期課程5専攻）を有する大学となっており、引き続き「文理芸融合のグローバル総合大学へ」をスローガンに、改革を進めながら教育に取り組んでいる。

本学は、建学の理想を「産学一如」と定め、「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」の建学の理念を掲げている。産学一如とは、「産業と大学は、車の両輪のように一体となって、時々々の社会のニーズを満たすべきである」との意味であり、創設者中村治四郎の想いを表している。

この建学の理想と理念に導かれた「本学の目指す教育」は、次の3点である。

- （1）創造的能力を伸ばし、理論に偏ることなく応用技術を身につける教育
- （2）自国の文化とともに世界の多様な文化を理解し、これに対応できる感性を養う教育
- （3）九州という立地を活かし、アジア・太平洋地域に目を向けた教育

② 学科等（教職課程を有する学科のみ）

本学は、上述の本学の目指す教育のもと、商学部、理工学部では次のとおり人材養成の目的を掲げている。

商学部では、幅広い教養と商学・経営学・会計学・情報学及び関連する学際的領域の学びを通じて、広く産業界の期待に応えられる「実践力」、「熱意」、「豊かな人間性」を持ち、激しく変化する時代に主体的に対応できる人材を養成する。

理工学部では、九州地域に展開されている自動車製造業・半導体製造業・ロボット産業をはじめとする情報メカトロニクス分野において貢献できる汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者の養成を目的とする。

なお、各学科においての人材育成目標は次のとおりである。

<経営・流通学科>

幅広い教養とデジタルビジネス、国際ビジネス、企業経営、会計・ファイナンス、マーケティングの専門的・実践的知識の学びをもとに、「地域産業の発展を通じて地域活性化に貢献できる人材」、「激しく変化する現代社会をたくましく生き抜ける人材」を養成する。

<機械工学科>

機械工学科では、情報メカトロニクス分野における地域の発展に寄与するため、機械、ロボット工学、メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎学力、機械工学の基礎及びコミュニケー

ション能力を身に付けた、汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者を養成する。また、モノづくり教育に加え、実践的なプロジェクトデザイン教育を導入することで、地域社会の発展のために大学での学修成果を継続して生かすことのできる人材を養成することを目的とする。

<電気工学科>

電気工学科では、電気工学、電子工学、通信工学に関する基礎知識とそれらを活用できる技術力を身に付け、高い倫理観を持った技術者として、豊かな現代社会を支えている電気エネルギー、電子デバイス、情報通信の分野において社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(2) 教員養成に対する理念・構想

① 大学

本学の教員養成は、「私立大学における教員養成」と「開放制の教員養成」の原則により、これまで特色のある質の高い教員養成を行ってきた。本学は、現在までに計13万人以上の人材を卒業生として産業界に輩出してきた。教育分野では、中学校・高等学校の主要5教科の教員免許に加え、美術・工芸・工業・商業・情報の免許取得者、平成30年度に開設した人間科学部子ども教育学科からは幼稚園免許、特別支援学校（知・肢・病）の免許取得者を輩出しており、幼児教育から高等教育まで幅広い人材の育成に取り組んでいる。多数の卒業生が、九州を中心とした学校現場において活躍しており、社会的役割を果たしている。

また、令和3年3月12日に開催された中央教育審議会総会において「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の諮問が行われ、「『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」が取りまとめられた。そのため、教師の養成を担う本学としては、令和の日本型学校教育を具現化すべく、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもって取り組み、わが国の次世代の担い手に対して相応しい人材養成を目指す。

・教育者にふさわしい人間性の育成

多様な学修に基づく専門的職業人としての知識・技能を教育現場において活かすためには、教員としての基本的資質、すなわち人と深く関わることのできるコミュニケーション能力や協調性及び教育者としての使命感を備えていることが前提となる。本学では、平成26年度から教養を身につけグローバル社会で活躍できる心身共に健全な人間教育の実現のために導入した

「KSU基盤教育」において基本的資質に裏づけられた教育者を育てており、令和4年度には、芸術学部を有する本学の特色を活かした「文理芸融合科目」群を設け、より一層幅広い資質を持った人材の育成に取り組んでいる。

・教員に求められる専門性、実践的指導力の養成

今日のように多様な個性を持つ幼児児童生徒を対象に教員としての職責を全うするためには、様々な課題を持つ子どもと向き合い具体的かつ効果的な指導や援助ができなければならない。そのため本学では、各学科の専門分野に関する総合的な知識・技能と学科間の連携による他分野の幅広い知識・技能の修得を可能にするカリキュラムを整備するとともに、各種ボランティア活動等の実践的な教育活動への参加を通じて専門性と実践的指導力を持つ教員を養成する。

・自らの資質を向上し続け、正解の見えない問題を解く力と自己教育力の獲得

変化の激しい現代社会にあっては、教職についた後でも、教育者としての知識及び技能を生涯にわたって高めていくことが求められている。本学では主体的・対話的で深い学びを重視し、アクティブ・ラーニング又はPBL教育を展開する「KSUプロジェクト型教育」において、学生の「正解のない問題を解く力」を育成する。さらに、同教育において「実践力」、「共創力」、「統率力」を身につけることにより、学生の自立的志向を高め、自らの資質を向上し続けるための不断の努力を可能にする自己教育力を養成する。

② 学科等

商学部において目指すべき教師像は、「高い専門性を持ち、他者と関わりながら実践する学修し続ける教師」としている。具体的には「論理的思考力」、「表現力」、「コミュニケーション力」、「感性力」、「実践力」の5つの能力に加え、他者と関わり合いながら学修し続ける力を教職課程において身につけるべき必要な能力として定義している。

理工学部において目指すべき教師像は「高い専門性を持ち、他者と関わりながら実践する学修し続ける教師」としている。具体的には「論理的思考力」、「表現力」、「コミュニケーション力」、「感性力」、「実践力」の5つの能力（学部の人材育成の目標）に加え、他者と関わり合いながら学修し続ける力を教職課程において身につけるべき必要な能力として定義している。

上述の目標を達成するために、特定の専門に留まらない広く総合的な複数の専門分野の学修から得られる多様で幅広く豊かな学識を有し、生徒の教育に従事・貢献できる教員の養成を目指す。

<経営・流通学科>

本学科は、九州・アジア地域を実践的な学びの対象として重視しながら、①幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識、②デジタルビジネス、国際ビジネス、企業経営、会計・ファイナンス、マーケティングの専門的知識、③問題設定能力・問題解決能力、④行動力・やり遂げる力、⑤コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を習得した教員の育成を目指す。

〈機械工学科〉

機械工学科では、ロボット工学、メカトロニクスを含む機械分野の仕事に必要とされるデザイン能力の修得を目標とする。工学におけるデザインとは、企画、仕様、設計、加工、組立及び検査に至るモノづくりにおける総合的な能力を示している。総合的な基礎学力からロボット工学、メカトロニクスを含む機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるように、座学のみに偏らず実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムを編成することで、創造性豊かな専門技術者と教員を育成する。

〈電気工学科〉

電気工学科では、電気関連の分野で必要不可欠な基礎知識を学び、応用・発展分野として電気エネルギー、電子デバイス、情報通信の分野を系統的に学ぶ3つのコースを設置する。座学で専門知識を修得し、電気関連の国家資格試験を意識した演習、専門基礎、各専門コースに配当している充実した実習・実験を通して、専門分野において社会に貢献できる技術力および教員としての実践力を養成する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（免許教科・学科等ごと）

高一種免（情報）は、商学部再編前の「経営学部産業経営学科」で平成13年度に課程認定を受け、平成14年度入学生から高一種免（商業）及び（情報）の教員養成を行っていた。当時の「経営学部産業経営学科に高一種免（情報）の課程認定を受けようとする理由書」には、「専門科目の中の3割以上がコンピュータを活用する授業科目であることと、従来までの経営学、マーケティングや経営工学等の経営に関する専門科目を修得させるとともに徹底したコンピュータ指導を行っている」と述べている。また、開設当初は現職教員や科目等履修生として高一種免（情報）の免許取得希望者を受け入れ、毎年5名程度の教員を養成しており、実際に教育現場で活躍している。この後、商学部と経営学部の再編により、経営学部の学生募集停止と合わせて教職課程認定を取り下げた。しかしながら、平成30年度からは、高等学校において「プログラミング」の授業が必修化された。また、令和7年度大学入学共通テストから「情報」が選択科目の一つとして採用されることが発表されている。さらに、コロナ禍を経て、高等学校の授業でタブレット端末が使用されるようになり、福岡県内（公立学校）のタブレット普及率は100パーセントを達成している。教育現場でICT化が急速に進み、社会においても数理、データサイエンス、AIの知識を持った人材の育成が求められている。

また、中一種免（技術）は、福岡県内で教員養成を行っているのは国立大学法人の福岡教育大学のみであり、私立大学では皆無である。本学では、昭和63年教育職員免許法改正以前は、中一普免（技術）の教員養成を行っていた。しかしながら、現在はその課程を有していない。近年の福岡県内における技術教諭の不足は顕著であり、教育実習校受入れ承諾をいただいた福岡市教育委員会、沖学園中学校からも受入れ承諾と同時に開設要望があった。

本学の建学の理想「産学一如」に立ち返り、「産業と大学は、車の両輪のように一体となって、時々のニーズを満たすべきである」という創設者の想いに応えとともに、再度教職課程認定申請を行い、学校業界と一緒に教員養成に取り組むものである。

<経営・流通学科>（情報）

社会情報を中心に、企業経営、会計、ファイナンス、マーケティング、国際ビジネスの各分野においてそれぞれ情報関連科目を系統的に学修し、特に「AI、データサイエンス」の急速な発展にも対応し得る指導力を身につける。また、ビジネス基礎力・応用力、創造力、実践力を身につけるとともに、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき実施する「多様なコースでの専門的知識の学修」と「九州・アジアの地域社会・行政・企業を対象とした実践的な学び」を通じて、情報スキルを持ったビジネスに関わる課題を自ら発見できる能力、幅広い視野から解決策を提案できる能力、周りを巻き込み実行できる能力を育成する。以上のことから、高等学校教諭一種免許（情報）を取得できる課程を設置する。

〈機械工学科〉（技術）

機械工学科では、機械工学の根幹を成す工作法と4力学（「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、「機械力学」）を学修した後、機械、ロボット、メカトロニクス各分野で必要とされる応用技術を身に付け、専門領域及び教育実践に関する能力を育成する。

これら機械工学の知識によって幅広く工業社会に寄与することができ、コンピュータ等の電気工学の知識を修得したうえで、コミュニケーション能力、企画力、提案力などを兼ね備えた教員の養成を目指し、中学校教諭一種免許状（技術）及び高等学校教諭一種免許（工業）を取得できる課程を設置する。

〈電気工学科〉（技術）

近年の地球規模での電気エネルギー問題や環境・資源問題に対してサステナブルな循環型社会の構築へ貢献できる人材の育成が求められている。電気工学科では、電気工学、電子工学、制御工学、計測技術、通信技術などの多岐に渡る分野について学修し、技術開発、問題解決能力の育成に努める。

科学技術の更なる発展の中で主体的に目の前の課題に取り組み、自らの経験を重ねることで次世代の電気技術に貢献できる、表現力、感性力等を養う。独自の提案、研究指導ができる教員を養成することを目的とし、中学校教諭一種免許状（技術）及び高等学校教諭一種免許（工業）を取得できる課程を設置する。

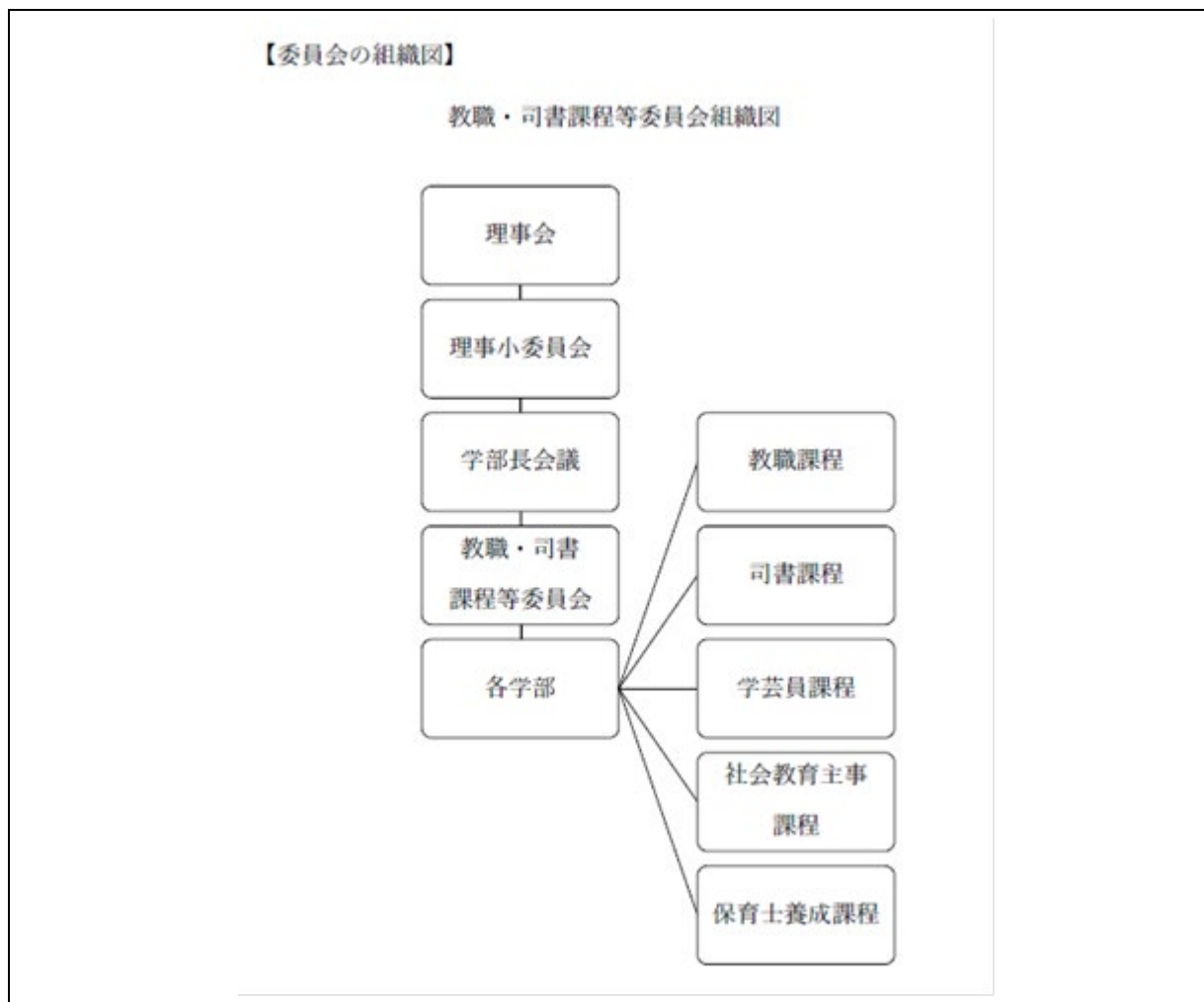
以 上

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職・司書課程等委員会
目的：	教職課程、図書館司書及び司書教諭課程（以下「司書課程」という。）、学芸員課程、社会教育主事課程並びに保育士養成課程に関する事項を審議する。
責任者：	教務部長
構成員（役職・人数）：	(1) 教務部長 (2) 教職課程主任及び司書課程主任 (3) 人間科学部子ども教育学科主任 (4) 教職専門科目、司書課程、学芸員課程及び社会教育主事課程担当の専属教員から委員長が指名した者 (5) 各学部から選出された委員各1名 (6) 委員長が指名する者若干名
運営方法：	本委員会は、次の事項を審議する。 I. 教職課程に関する事項 ① 教職課程履修規程に関すること ② 教職専門科目及び教科専門科目の年次配当に関すること ③ 教育実習に関すること ④ 教職課程認定申請に関すること ⑤ 教職課程履修者の免許状取得所要単位の可否判定に関すること ⑥ 教職課程の科目等履修生に関すること ⑦ その他教職課程に関すること II. 司書課程・学芸員課程・社会教育主事課程に関する事項 ① 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目履修規程に関すること ② 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目の授業計画に関すること ③ 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目履修者の修得単位の確認に関すること ④ 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目の科目等履修生に関すること ⑤ 講習会に関すること ⑥ その他司書課程・学芸員課程・社会教育主事課程に関すること III. 保育士に関する事項 ① 保育士に関する履修規程に関すること ② 保育士養成課程の授業計画に関すること ③ 保育実習に関すること ④ 保育士養成課程の申請に関すること ⑤ 保育士養成課程科目履修者の修得単位の確認に関すること ⑥ 保育士養成課程科目の科目等履修生に関すること ⑦ その他保育士養成課程に関すること

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

①

教職実践演習において、本学の教職課程における実践的指導力の育成の観点から、中学校及び高等学校教員と連携した授業を実施するため、県内の中学校及び高等学校に連携協力を依頼し、次のような取組を行っている。

- ・ 県内の中学校及び高等学校教員を招いた講演会の実施

現職教員を講師として招聘し、学生に対して演習を交えた講演を依頼している。学校現場の中核として活躍している現職教員の講話を直接聞き、ディスカッションすることで、今後教員としての実践的指導力を育む上で大変貴重な経験ができた、受講生からの評価も高い。

- ・ 近隣の高等学校での授業見学

高等学校の教育現場における実際の授業を参観させてもらっている。取得希望の免許教科ごとに訪問先（普通科、情報科、工業科）を分け、教育実習期間中には見学することのできなかつた現場での指導を見学し、学生が授業実践力の基礎を育む上で貴重な経験となっている。

②

本学では、幼稚園教諭と特別支援学校教諭の「免許法認定講習」を令和3年度から実施している。令和3年度は「幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業（幼稚園教諭免許法認定講

習等の在り方に関する調査研究)」、令和4年度～令和5年度は「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（幼稚園教諭免許法認定研修等の在り方に関する調査研究幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業）」の委託事業に採択された。

委託事業実施にあたって、「検討委員会」を設置し、福岡県教育庁義務教育課長、福岡市教育委員、福岡市東区幼稚園長会支部長に外部委員として就任いただいている。また、学内委員として教務部長（教職・司書課程等委員会委員長）、教職・司書課程等主任が出席している。「検討委員会」では、免許法認定講習の実施案策定のみならず、福岡県が抱える「喫緊の課題」について議論を重ね、その状況を学内の教職課程運営や学生への講義内容に反映することで、教育の最新事情に取り組む機会となっている。

③

本学では、平成30年6月に「九州産業大学教職ネットワーク」（以下「本会」という）を発足させた。本会は、会員相互の親睦、研修を図り、教育の発展と人材の育成に寄与することを目的としている。会員は、本学卒業生で教育機関での勤務経験を有している者、教職課程を履修している在学生、本学卒業生で教育職員免許状を有している者と、本学での勤務経験を有する教職員である。年1回の総会をはじめ、研修会を通じて会員相互の親睦を図るとともに、教員の仕事の魅力を在学生に伝えること、教員の求人情報交換を通じて、教員という仕事の魅力発信と在学生の「教員として働くこと」のロールモデルの構築に努めている。現会長は、久留米市立久留米商業高等学校長（本学卒）が務めている。

（2）学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	学生サポーター制度
連携先との調整方法：	①福岡市教育委員会と「学生サポーター制度」の協定に基づき、担当教員が事前説明会を行い、学生募集を行う。 ②学生からの申込受付後、担当教員が面接を行う。 ③大学から提案された「受入プラン」から活動先の学校を決定する。 ④活動先が決まったら、活動先となる学校と活動日時や活動内容について打合せを行う。
具体的な内容：	平成16年度から福岡市教育委員会と協定を結び、大学の派遣計画に基づき、福岡市立の小・中学校、幼稚園に学生を派遣し、授業の補助や部活動の支援など、教育現場で教諭の補佐役として様々な教育活動に参加する教育ボランティアおよびインターンシップの両要素を併せ持つ制度である。本学では、単位認定が伴う科目「学生サポーター」として開設している。授業補助業務のほか、遠足や運動会等の学校行事、さらに昼休みの図書の読み聞かせや放課後のクラブ活動等に取り組んでおり、具体的な体験内容は派遣先学校との調整によって決定している。 単位取得の具体的な要件は、①通年または後期に合計30時間以上の現地活動、②現地活動前の事前研修、③活動期間中の中間報告会、④現地活動終了後の報告会における発表及び⑤研修報告書の提出である。 なお教育実習同様に子供に大きな影響を与えることが予想されるため、希望者は説明会に参加し、エントリーシートと成績表の審査及び面接によって履修の可否を決定する。また報告会は、関係教職員等も参加し、意見交換を行う。学生達は、実

社会の教育現場での経験が自己の成長に大いに役立っている。

②

取組名称：	福岡県不登校児童生徒支援事業（ラーニングサポーター制度）
連携先との調整方法：	①福岡県教育庁義務教育課教育相談室から募集要項が届く。 ②募集要項に基づき、大学側からボランティア希望学生を福岡県教育庁に推薦する。 ③福岡県教育庁と採用された学生が直接連絡を取り合いながら、活動を行う。
具体的な内容：	本事業は、令和4年4月から施行された「福岡県不登校児童生徒支援強化事業実施要項」に基づき、福岡県内の4大学（久留米大学、福岡教育大学、福岡県立大学、本学）が実施している。大学生ボランティアが、十分な個別支援を受けられていない不登校児童生徒に対して、「オンライン」による学習支援や相談活動を継続する中で、教育支援センター等への通所や、学校への登校等、社会的な自立に向けた支援を行うことを目的としている。活動形態は、月曜日から木曜日（9時～17時）のうち、1回1時間を単位として、福岡県教育庁がボランティア学生と不登校児童生徒をマッチングして実施している。この活動により、社会的な自立に向かった児童生徒もいたという報告を福岡県教育庁から受けている。また、教員を目指す学生にとっても支援方法を学ぶ機会となり、好循環が生まれている。

③

取組名称：	ふくおか教員養成セミナー
連携先との調整方法：	①福岡県教育センターと実施方針について協議する。 ②福岡県教育センターが作成したスケジュールに基づき、本学側は使用教室・機材の準備を行う。 ③セミナー参加者の募集は、福岡県教育センターが行う。
具体的な内容：	本事業は、平成24年3月に締結した「ふくおか教員養成セミナーに関する協定書」に基づき、福岡県教育委員会と本学が連携協力して「ふくおか教員養成セミナー」の学生参加促進をしながら実施している。コロナ禍（令和2年度～令和4年度）は開催されなかったが、令和5年度は、令和6年1月26日に本学で開催された。 「ふくおか教員養成セミナー」は、福岡県の公立学校教員を目指している、または職業選択として興味を持っている学生に、職業としての教員の魅力や職務内容を伝えるものである。現役教員の講話や懇談などを通じて教育実践に触れる機会を提供しているセミナーである。福岡県内の大学生で小・中学校教員を志望している者が対象で、本学での開催時は、80名近くの参加者のうち、本学学生が10名程度参加した。

④

取組名称：	福岡市「学習指導員派遣事業を活用した就業体験」
連携先との調整方法：	福岡市教育委員会が募集している学習指導員（有償ボランティア）に希望学生を大学側が紹介し、受入先と学生が活動時間（週10時間程度、年間350時間）を調整して活動している。

具体的な内容： 本事業は、福岡市教育委員会指導部学校企画課が主導となって実施している。活動内容は、授業時間中（体育以外）の指導補助が中心であり、本学近隣の中学校で学習指導員が不足していた現状もあり、本学学生が活動に参加している。授業時間中の指導補助が中心となることから、学生が児童生徒の支援方法を実地で学ぶ機会となっている。また、受入学校側、教育委員会からも高い評価を得ている。

⑤

取組名称：	福岡県「部活動指導員制度を活用した就業体験」
連携先との調整方法：	① 年度初めに協力校（香椎高校・香椎工業高校・香住丘高校）等からの部活動指導員（部活名・人数）の要請を受ける。 ② 教職課程履修者の希望調査を踏まえた候補者名簿の中から候補者を選定し当該校に紹介する。 ③ 当該校が学生の面接を行った上で福岡県教育庁に申請し、学生は研修を受けて業務にあたる。
具体的な内容：	本取組は、平成 29 年度 4 月 1 日施行された「部活動指導員制度」を活用し、福岡県教育委員会と本学近隣の協力校（福岡県立香椎高等学校・福岡県立香椎工業高等学校・福岡県立香住丘高等学校）と本学が連携して実施している。本学教職課程履修者の部活動経験者等を紹介することによって、協力校の課題解決に寄与するとともに、当該生徒の教職志向と指導力の向上を図るものである。 本取組の 1 期生に当たる令和 2 年度入学生 4 名の内 3 名は教職を目指すことになり、当該高校の顧問・部員に対するアンケートにおいても高い評価を得ている。

Ⅲ. 教職指導の状況

1 年次生対象に教職ガイダンスを前期に 1 回、後期に 1 回、計 2 回開催している。各学部・学科で取得可能な教員免許状、教員免許状取得要件等の教職課程を履修していく上で必須となる規程や教員採用の現状等を説明し、教員志望の意識づけを行っている。

年度初めには学年別の教職ガイダンスを開催し、4 月からの教職課程履修における注意点や履修カルテの入力に関する項目の説明、今後の日程や教員免許状取得要件の再確認を行っている。

中学校免許取得に必要な「介護等体験」に関しては、該当学生にガイダンスを実施したのち、本学教職専任教員が中心となって独自に制作した「介護等体験事前指導」動画を視聴させ、特別支援学校、社会福祉施設の概要、体験時の心構えを修得させている。

教職課程支援室では、教職専任教員及び教務課担当職員が中心となって履修指導や各種相談を行うとともに、週 1 回オフィスアワーを開設している。

様式第7号ウ

＜機械工学科＞（認定課程：中一種免（技術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	機械工学及びロボット工学の概要、社会における機械やロボットの役割など、機械工学及びロボット工学が対象とするものなどを総合的に理解するとともに、様々な機械やロボットを製作するための基礎的な知識と技術及び電気工学の基礎などを修得する。また、教職課程ガイダンスを受講し教職課程の履修方法やカリキュラムの全体像を把握するとともに、教職に対する意欲や関心を高め、教員に求められる情報活用及び外国語コミュニケーションに関する基礎的な知識や技能を身につける。
	後期	機械やロボットを設計する際の基本となる部品の素材や強度についての知識を修得する。さらに、憲法の意義や役割を理解するとともに、体力の増進を図り、心身ともに健康な生活習慣を身につけ、スポーツの意義を学ぶ。また、教職の意義や教員の職務内容を理解するとともに、教員免許状取得後の進路選択についても具体的に考え、高等学校教員に求められる心理学的知識や生徒理解に関する基礎理論を修得する。
2年次	前期	工作機械を使用し、機械やロボットの部品の加工方法を身につけるとともに、「栽培」において生物育成についての知識を身につける。また、工業概論によって、工業についての全般的な知識を修得する。さらに、教育の理念や教育に関する歴史及び思想を学び、教育という行為を原理的に把握する。併せて、教育課程の意義を理解するとともに、学習指導要領の内容や歴史、動向を学び、高等学校のカリキュラム編成に必要な方法論を修得する。また、高等学校における生徒指導や進路指導の理論及び方法を修得し、現代の子どもたちが抱える諸問題を具体的に理解する。
	後期	機械やロボットを設計する際における、部品の運動、熱の伝わり方や液体・気体の流れなどについて、応用的な内容を学修する。また、木材を中心とした素材についての知識を深めるとともに、工作等を通じて加工技術について理解する。さらに生徒の自主的かつ主体的な活動を促す理論と方法を修得し、生徒指導に関する発達心理学的知識を獲得する。なお、道徳教育に関する基礎理論を学ぶとともに、道徳の指導法を身につける。
3年次	前期	機械やロボットを設計する上でのより専門的な知識を修得するとともに、機械やロボットの運動やその制御に関する技術を修得する。また、通年科目の「職業指導」によって職業の基本的・応用的知識（キャリア発達・教育）を修得する。さらに板書やあいさつの練習を重ねることによって、教育実習生として当然身につけておくべき適性や資質能力を獲得する。併せて、将来教員として生徒や保護者と教育相談を行う際に必要なカウンセリングの理論と技法を身につけ、指導案作成や教材研究の方法を学んだ上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力を養う。
	後期	「設計製図」において、与えられた所定の設計条件から機械やロボットを設計し、さらにその図面を製作する能力を身につけるとともに、流体力学、工作機械についての知識や技術を身につける。また、4年生に配当されている卒業研究を実施するうえで必要な、文献等から情報を収集する能力や問題発見能力、ならびに問題解決能力を身につける。さらに、現代日本の教育制度を支えている教育法規の内容や意義を正しく理解するとともに、教員として必要な遵法精神を身につけ、西洋の教育史を専門的に学ぶことによって、現代及び今後の教育のあり方を模索するための知見を得る。さらに、自ら計画的に指導案作成や教材研究をすすめた上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力をさらに向上させる。
4年次	前期	実習生としての心構え・実習に関わる文書作法・コミュニケーションの流儀などを教育実習前に学ぶとともに、教育実習中の教科指導や生徒指導の経験を事後的にディスカッションするなどして、教育実習という貴重な経験をより充実したものとする。また、教育実習中は、学校教育の現場に身を置きながら教員としての適性を自ら厳しく審問するとともに、教員として必要不可欠な実践的指導力の基礎を修得する。
	後期	履修カルテを活用しながらこれまでの教職課程における学びを振り返るとともに、授業参観・模擬授業・ロールプレイング・現職教員による講義などの実践的なプログラムを通じて、教員として最小限必要な資質能力を身につける。また、教育実習を振り返り、教育実習中の自己を分析、評価することで、教員としての自覚を養う。

様式第7号ウ（教諭）

<機械工学科>（認定課程：中一種免（技術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		機械製図		Listening & Speaking I	基礎数学
			情報リテラシー		Four Skills I	基礎物理
			コンピュータリテラシー		Labo Training I	エンジニアスキル I
			プログラミング		AI導入	工業数学
			AIプログラミング演習		プログラミング入門	
			電気電子工学基礎			
	後期	教職論	機械材料		日本国憲法	技術者理論
		教育心理学	材料力学 I		スポーツ科学演習	エンジニアスキル II
			プログラミング基礎 I		Listening & Speaking II	工業力学
			AIリテラシー		Four Skills II	
			電気電子工学導入演習		Labo Training II	
					English Expressions	
2年次	通年集中	技術科教育法				
		教育社会学	生物育成			
	前期	教育原理	材料力学 II		Listening & Speaking III	熱力学 I
		教育課程論	機械加工学			流体力学 I
		生徒指導論(進路指導を含む)	機械工作法			機械CAD I
		学校発達心理学	機械力学 I			
			工業概論			
			メカトロニクス			
	後期		電気電子工学演習			
		道德教育論	機械加工実習		Listening & Speaking IV	熱力学 II
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	材料加工			熱力学演習
						流体力学 II
						流体力学演習
						機械CAD II
3年次	前期	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	機械工学探究	同和教育論		材料力学 III
		教育相談の方法・技術	機械工学実験A			材料強度学
		教科指導法 I (技術)	機械・ロボット設計			伝熱工学
			制御工学A			
	後期	教育制度論	機械工学実験B	教職特講		機械・ロボット設計 II
		教科指導法 II (技術)	機械工学シミュレーション			工作機械
		特別な教育的ニーズの理解とその支援	設計製図			流体機械
			制御工学B			モータ制御
						熱機関
4年次	集中	教育実習事前事後指導				
		教育実習 I				
		教育実習 II				
	前期					
	後期	教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜電気工学科＞（認定課程：中一種免（技術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	電気工学の基礎について学びを深めるとともに、様々な情報システムを有効に利用するための基礎的な用語や情報技術を学修する。また、教職課程ガイダンスを受講し教職課程の履修方法やカリキュラムの全体像を把握するとともに、教職に対する意欲や関心を高め、教員に求められる情報活用及び外国語コミュニケーションに関する基礎的な知識や技能を身につける。
	後期	直流回路を構成する抵抗素子と電源の特性、回路方程式の立て方等、回路に関する様々な定理の学修を通して線形集中定数システムの特性や解析手法の基礎を修得するとともに、電気回路に関する基本的な法則と理論を正しく理解し、電気回路をその方程式により数理的に解析できることを目標とする。さらに、憲法の意義や役割を理解するとともに、体力の増進を図り、心身ともに健康な生活習慣を身につけ、スポーツの意義を学ぶ。また、教職の意義や教員の職務内容を理解するとともに、教員免許状取得後の進路選択についても具体的に考え、高等学校教員に求められる心理学的知識や生徒理解に関する基礎理論を修得する。
2年次	前期	交流回路の法則、解析方法および二端子対回路を学び、直列、並列や複合された電気回路に関する基本的な法則と理論の正しい理解、電気回路の分析方法を修得する。また、「栽培」において生物育成についての知識を身につける。さらに、工業概論によって、工業についての全般的な知識を修得する。教職課程においては、教育の理念や教育に関する歴史及び思想を学び、教育という行為を原理的に把握する。併せて、教育課程の意義を理解するとともに、学習指導要領の内容や歴史、動向を学び、高等学校のカリキュラム編成に必要な方法論を修得する。また、高等学校における生徒指導や進路指導の理論及び方法を修得し、現代の子どもたちが抱える諸問題を具体的に理解する。
	後期	送配電技術等の電力技術及び導電性材料等の電気材料技術に関する基礎知識を修得する。また、木材を中心とした素材についての知識を深めるとともに、工作等を通じて加工技術について理解する。さらに生徒の自主的かつ主体的な活動を促す理論と方法を修得し、生徒指導に関する発達心理学的知識を獲得する。なお、道徳教育に関する基礎理論を学ぶとともに、道徳の指導法を身につける。
3年次	前期	機械やロボットを設計する上でのより専門的な知識を修得するとともに、機械やロボットの運動やその制御に関する技術を修得する。また、直流機や自動制御等並びにデジタル回路に関する実験を通して、通信技術に関する理解を深める。さらに板書やあいさつの練習を重ねることによって、教育実習生として当然身につけておくべき適性や資質能力を獲得する。併せて、将来教員として生徒や保護者と教育相談を行う際に必要なカウンセリングの理論と技法を身につけ、指導案作成や教材研究の方法を学んだ上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力を養う。
	後期	デジタル信号処理の基本について学修し、離散時間の信号とシステム、信号の正規化表現と信号処理手順、デジタルシステムの伝達関数やシステムの安定性、サンプリング定理、高速フーリエ変換等について理解し、電子技術の理解に必要なデジタル形式で表現された信号及び情報の処理に関する知識を収録する。また、現代日本の教育制度を支えている教育法規の内容や意義を正しく理解するとともに、教員として必要な遵法精神を身につけ、西洋の教育史を専門的に学ぶことによって、現代及び今後の教育のあり方を模索するための知見を得る。さらに、自ら計画的に指導案作成や教材研究をすすめた上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力をさらに向上させる。
4年次	前期	実習生としての心構え・実習に関わる文書作法・コミュニケーションの流儀などを教育実習前に学ぶとともに、教育実習中の教科指導や生徒指導の経験を事後的にディスカッションするなどして、教育実習という貴重な経験をより充実したものとする。また、教育実習中は、学校教育の現場に身を置きながら教員としての適性を自ら厳しく審問するとともに、教員として必要不可欠な実践的指導力の基礎を修得する。
	後期	履修カルテを活用しながらこれまでの教職課程における学びを振り返るとともに、授業参観・模擬授業・ロールプレイング・現職教員による講義などの実践的なプログラムを通じて、教員として最小限必要な資質能力を身につける。また、教育実習を振り返り、教育実習中の自己を分析、評価することで、教員としての自覚を養う。

様式第7号ウ（教諭）

<電気工学科>（認定課程：中一種免（技術））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期		情報リテラシー		Listening & Speaking I	基礎数学
			電気電子工学基礎		Four Skills I	基礎物理
					Labo Training I	
					プログラミング入門	
					AI導入	
					プログラミング導入	
	後期	教職論	プログラミング基礎 I		日本国憲法	電気数学
		教育心理学	電気電子工学導入演習		スポーツ科学演習	電気CAD
			電気回路 I		Listening & Speaking II	
			AI入門		Four Skills II	
					Labo Training II	
					English Expressions	
2年次	通年	技術科教育法				
	集中	教育社会学	生物育成			
	前期	教育原理	工業概論		Listening & Speaking III	デジタルシステム概論
		教育課程論	電気電子工学演習			電気回路 I A
		生徒指導論（進路指導を含む）	電気回路 II			電気回路 I B
		学校発達心理学	電気電子基礎実験 I			
			AI応用			
			メカトロニクス			
	後期	道徳教育論	材料加工		Listening & Speaking IV	電気回路 II A
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	制御工学 I			電気回路 II B
			電気電子基礎実験 II			電気回路 III
			電気エネルギー概論			通信理論
3年次	前期	教育の方法・技術（情報通信技術を含む）	電気工学実験	同和教育論		技術者理論
		教育相談の方法・技術	制御工学 II			超伝導工学
		教科指導法 I（技術）	情報ネットワーク			半導体デバイス工学 I
			通信システム工学			電気機器 I
			機械工学実験 A			電力システム工学
						電磁波工学
	後期	教育制度論	機械工学実験 B	教職特講		電磁気学 III
		教科指導法 II（技術）				シミュレーション工学
		特別な教育的ニーズの理解とその支援				半導体デバイス工学 II
						電気機器 II
4年次	集中	教育実習事前事後指導				
		教育実習 I				
		教育実習 II				
	前期					
	後期	教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

<経営・流通学科> (認定課程: 高一種免(情報))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	様々な情報システムを有効に利用するための基礎的な用語や情報技術を学修する。また、教職課程ガイダンスを受講し教職課程の履修方法やカリキュラムの全体像を把握するとともに、教職に対する意欲や関心を高め、教員に求められる情報活用及び外国語コミュニケーションに関する基礎的な知識や技能を身につける。
	後期	前期に引き続き、情報技術を学修するとともに、情報倫理(リテラシー)を身につける。また、憲法の意義や役割を理解するとともに、体力の増進を図り、心身ともに健康な生活習慣を身につけ、スポーツの意義を学ぶ。また、教職の意義や教員の職務内容を理解するとともに、教員免許状取得後の進路選択についても具体的に考え、高等学校教員に求められる心理学的知識や生徒理解に関する基礎理論を修得する。
2年次	前期	社会状況を詳しく楽しく広める「メディアとコンテンツ」、「インターネットの強みを生かしたビジネス」について学び、それらを安全かつ迅速に可能にする「情報技術」について、様々な事例を用いて学修する。さらに、教育の理念や教育に関する歴史及び思想を学び、教育という行為を原理的に把握する。併せて、教育課程の意義を理解するとともに、学習指導要領の内容や歴史、動向を学び、高等学校のカリキュラム編成に必要な方法論を修得する。また、高等学校における生徒指導や進路指導の理論及び方法を修得し、現代の子どもたちが抱える諸問題を具体的に理解する。
	後期	人間の行動や商品の特性をデータ化し、分析を行う技術について理解を深め、情報システムを構成するうえで必要なネットワークやデータベースについて学修する。さらに、高校生の自主的かつ主体的な活動を促す理論と方法を修得し、高校生指導に関する発達心理学的知識を獲得する。なお、道徳教育に関する基礎理論を学ぶとともに、道徳の指導法を身につける。
3年次	前期	文字、音声、画像、映像というマルチメディアデータの構造と特性を理解し、それら进行处理するためのハードウェアとソフトウェアについて学修する。また、ネットワークを介したコンテンツ配信、コンピュータグラフィックス(CG)やバーチャルリアリティ(VR)などの3D技術、ウェブサイトデザインについての知識を修得する。さらに、板書やあいさつの練習を重ねることによって、教育実習生として当然身につけておくべき適性や資質能力を獲得する。併せて、将来教員として生徒や保護者と教育相談を行う際に必要なカウンセリングの理論と技法を身につけ、指導案作成や教材研究の方法を学んだ上で実際に模擬授業を行い、高等学校情報科教員に必要な教科指導力を養う。
	後期	情報システムを活用していくうえで重要な項目である情報セキュリティに関する理解及び、今後進展することが期待されるマルチメディア技術について学修する。また、現代日本の教育制度を支えている教育法規の内容や意義を正しく理解するとともに、教員として必要な遵法精神を身につけ、西洋の教育史を専門的に学ぶことによって、現代及び今後の教育のあり方を模索するための知見を得る。さらに、自ら計画的に指導案作成や教材研究をすすめた上で実際に模擬授業を行い、高等学校情報科教員に必要な教科指導力をさらに向上させる。
4年次	前期	実習生としての心構え・実習に関わる文書作法・コミュニケーションの流儀などを教育実習前に学ぶとともに、教育実習中の教科指導や生徒指導の経験を事後的にディスカッションするなどして、教育実習という貴重な経験をより充実したものとする。また、教育実習中は、学校教育の現場に身を置きながら教員としての適性を自ら厳しく審問するとともに、教員として必要不可欠な実践的指導力の基礎を修得する。
	後期	履修カルテを活用しながらこれまでの教職課程における学びを振り返るとともに、授業参観・模擬授業・ロールプレイング・現職教員による講義などの実践的なプログラムを通じて、教員として最小限必要な資質能力を身につける。また、教育実習を振り返り、教育実習中の自己を分析、評価することで、教員としての自覚を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜経営・流通学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期		データ分析Ⅰ		Listening & SpeakingⅠ	情報特講ⅠA
			デジタルマーケティング論		Four SkillsⅠ	情報特講ⅠB
					Labo TrainingⅠ	
					情報リテラシーⅠ	
					AI導入	
					プログラミング導入	
	後期	教職論	情報リテラシーⅡ		日本国憲法	情報特講ⅠC
		教育心理学	経営情報論		スポーツ科学演習	情報特講ⅠD
					Listening & SpeakingⅡ	
					Four SkillsⅡ	
					Labo TrainingⅡ	
					English Expressions	
2年次	通年	情報科教育法				
	集中	教育社会学				
	前期	教育原理	社会情報論A		Listening & SpeakingⅢ	人的資源管理論
		教育課程論	社会情報論B			マーケティング論
		生徒指導論(進路指導を含む)	コンピュータ概論			情報特講ⅡA
		学校発達心理学	データ分析Ⅱ			情報特講ⅡB
			メディア心理学			
	後期	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	社会情報論C	道德教育論	Listening & SpeakingⅣ	国際マーケティング
			社会情報論D			マーケティングリサーチ論
			eコマース論			マーケティングリサーチ演習
			プログラミング論			流通システム論
			データ分析Ⅲ			生産管理論
			情報ネットワーク論			情報特講ⅡC
						情報特講ⅡD
4年次	前期	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	マルチメディア論	同和教育論		リスクマネジメント論
		教育相談の方法・技術	デジタルビジネス演習A			生産システム論
			デジタルビジネス演習B			
	後期					原価計算論
		教育制度論	データベース論	教職特講		財務会計論
		教科指導法Ⅰ(情報)	情報セキュリティ論			管理会計論
		特別な教育的ニーズの理解とその支援	マルチメディア演習			ネットショップ実務士検定
			デジタルビジネス演習C			マルチメディア検定
			デジタルビジネス演習D			
4年次	集中	教育実習事前事後指導				
	集中	教育実習Ⅰ				
	前期					CSR論
	後期	教職実践演習(中・高)				